

<4月22日(金)-23日(土)第2戦レポート>

2016 D1 GRAND PRIX SERIES Rd.2 FUJI DRIFT

コースコンディション：ドライ

PACIFIC RACING TEAM with DUNLOP 村山悌啓選手(車両：NAC ガールズ & パンツァー S14 激 メガテック)

最終成績：単走予選不通過

<本文>

D1GP 第2戦の舞台は国際サーキットである富士スピードウェイ。このサーキットでの開催は2年ぶりだが、300Rからヘアピンを逆走で使うレイアウトは2011年以来5年ぶりの開催だ。この審査コーナーでは300R手前のゆるい左コーナーを加速し、300RをアクセルONのドリフトで通過し、振り返ってからヘアピンに飛び込み、ドリフトで立ち上がっていくコースレイアウトだ。飛び込み速度が200km/h前後となり、今季のD1GPのなかではもっともスピードが出るコースとなる。そのためエンジンにも馬力が要求される。

ところが村山選手は、前戦まで使用していた2.4L仕様のエンジンを、そのあと筑波サーキットで行われたイベントでデモ走行の際にブローさせてしまった。その修理がまにあわなかったため、今回はノーマルエンジンでの出走を余儀なくされた。これによってパワーは150ps以上低くなり、富士スピードウェイで戦うには非常にづらい状態だ。そのため、リヤが空転しやすいようにエア圧を高めセットし、空気抵抗となるリヤウイングも外して出走することにした。

村山選手は、練習走行1本目からねらったラインはトレースできるし、リズムもとれていた。ただ、練習走行の段階から、やや遅いのではないかという感触はあったという。そこで、エア圧を少し下げてトラクションを上げるなどして、扱える範囲でスピードを稼ごうというセッティング変更をした。



しかし練習走行2回目に、エンジンが吹けなくなる症状が出て2周で走行をやめた。原因はほぼ特定できたものの、完全に直すことはできず、応急処置だけをして予選に臨まざるをえなかった。

単走予選1本目、村山選手はリズムよくスムーズにコーナーをまわったが、車速が低く、角度なども全体的に大きくはなかったため得点が伸びない。2本目も走りの完成度は高かったが、見ためからもパワー不足を感じる余裕のない走りて点を落としてしまった。けっきょく1本目の95.20点が採用されたが、上位16名が通過できる単走予選で順位は19位。追走決勝進出を逃してしまった。



次戦は地元にも近く、『ガールズ&パンツァー』の舞台でもある茨城県・筑波サーキットでの開催。万全のマシンコンディションで活躍を期待したい！

<村山悌啓選手コメント>

単走予選の1本目は、とりあえずきれいに走って手がたく点をとりにいったんですけど、思ったほど点が伸びなかったのので、2本目はもっと攻めていったんですけど、エンジンが吹けなくなってしまいました。ヘアピンはなんとかドリフトを維持するのに精いっぱいでした。大会前はノーマルエンジンだとドリフトすることもできないんじゃないかと心配していたんですけど、実際に走ってみた感触ではトラブルがなければ予選は通過できたかもしれないと思いました。結果は残念ですけど、自分のなかでは非力なエンジンでもそれなりの走りはできるという自信にはなりました。次の筑波サーキットは、去年はノーマルエンジンで走っていいところまで行けたので、エンジンが直ればもっといいところに行けると思います！